

特集1：信州の気候変動～現状と将来予測、そして適応③～

市民参加調査「信州・温暖化ウオッチャーズ」

桜の開花が早まるなど、気候変動の影響とみられる現象が長野県内でも指摘されています。こうした自然の変化を市民参加でモニタリングするための仕組みとして「信州・温暖化ウオッチャーズ」の構築に取り組みました。県内各地のデータを広く収集するとともに、市民の方がモニタリングに参加することで、気候変動が身近な地域へも影響を及ぼしかねない問題であることを認識していただき、気候変動適応策への理解も深めていただくことを目指しています。

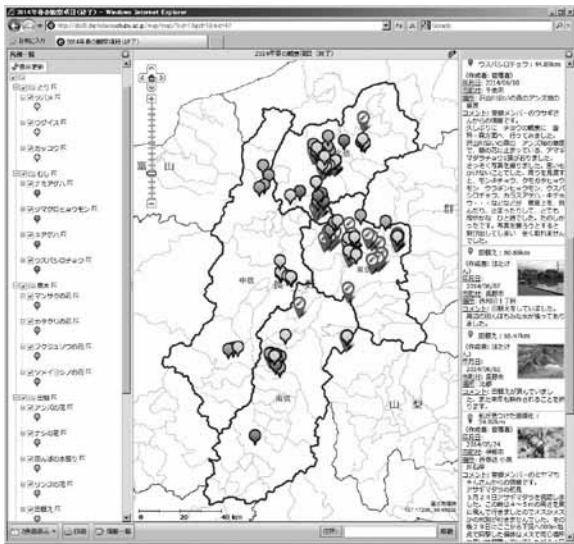


図1 2014年春調査のマップ

図1は2014年春のモニタリング結果を示したマップです。春はツバメやウグイス、ソメイヨシノなどのほか、田植えや残雪なども観察対象としています。ウオッチャーズのメンバーがこれら対象種を見たり聞いたりした場合にWebサイトやEメール、

FAXなどで環境保全研究所に報告します。報告された情報はインターネット上のマップで公開します。2013年春から本格運用を開始し、今年で3年目に入りました。

ウオッチャーズのメンバーには現在130名ほどの方に登録していただいています。メンバー数も報告数もまだまだ少なく、気候変動の影響を分析するためにはもっと多くの方にご協力いただく必要があります。そのための取り組みの一環として、2014年7～9月に「信州まるごとセミ探し」という企画を実施しました。この企画は、6種のセミについて、鳴き声を聞いた場合や、成虫や抜け殻を見つけた場合に報告してもらうというものです。セミを集中的に取り上げることで、子供を含め、これまであまり関心がなかった層への浸透を狙いました。図2はまるごとセミ探しの旬別報告数のグラフです。最初はニイニゼミの報告が多く、少し遅れてヒグラシの報告が増えました。7月中・下旬からはアブラゼミとミンミンゼミの報告が急増し、8月に入るとツクツクボウシの報告が増えました。6種で計222件の報告をいただきましたが、県全域のセミの分布を捉えるには不十分です。2015年以降も継続して、より多くの方にご協力いただくことで信州のセミマップを作成し、その変化を捉えて気候変動の影響を探っていきたいと考えています。是非多くのみなさんご協力をお願いいたします。（詳しくは「信州・温暖化ウオッチャーズ」サイトをご覧ください。）

(畑中健一郎)

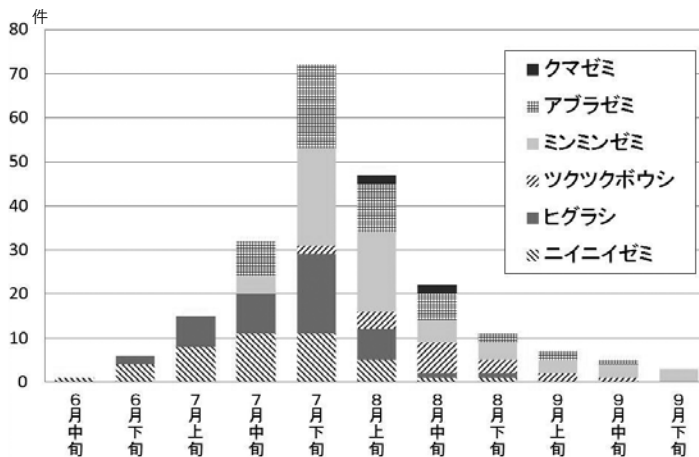


図2 「信州まるごとセミ探し」の旬別報告件数